

# 上人坂を流れる ~時間とともに~



愛媛県で最も観光客の多い道後。その中にも人通りの少ない場所があった。それが上人坂。

## 1. 背景

現在の上人坂といえば、宝厳寺が坂の上にあり、坂の両側は空き家や空き地、駐車場などが点在している。そのため現状、宝厳寺以外は観光名所とは呼び難い200m程の坂道が続いているだけである。また、道後温泉や商店街から少し距離があり、伊佐爾波神社や宝厳寺以外で上人坂方面を訪れる人はごくわずかである。そのため、これからの上人坂はさらに活気や賑わいを時間とともに失って行くだろう。それを食い止めるべく、今回はそんな上人坂を再編するためのプロジェクトを提案しようと思う。

舞台の中心は、既存の「ひみつジャナイ基地」である。交流拠点であるこの建物をうまく生かし、新たに登場する建物や古くから残る神社仏閣とのコントラストを楽しんでもらいたい。今回登場するのは、観光客に愛媛のおすすめスポットや名物を紹介する観光案内所。道後の街並みを一望できる竹を使ったドーム型の宿泊施設。夜の街を彩る足湯酒場。松山や道後の歴史を紹介し、2,3階には展望デッキがある歴史館。地域住民や観光客の新しい憩いの場になる公園。これらが坂を上る楽しみにもなるはずだ。

現在は、「ひみつジャナイ基地」だけが交流拠点になっている気がする。しかし、今回提案する建物が坂に建つことで上人坂全体が道後もしくは松山の交流拠点になるだろう。そうすることで上人坂を人が流れ、足湯が流れ、歴史が流れ、いい噂が流れるのではないだろうか。時間とともに…

## 3. ターゲット

地元、愛媛の人も意外と道後を訪ねたことがない人が多い。そこで、観光客とともに松山市を中心とした地元の方もターゲットにしている。



そうすれば、新しい交流が生まれ、交流拠点としての役割を果たすことができ、上人坂もしくは道後全体の活性化につながるはずだ。

外国人や県外の観光客  
愛媛県民で道後を訪れたことがない人

## 2. 外国人観光客の声

外国人観光客が松山に来る理由No. 1

温泉入浴

外国人観光客の情報源

観光案内所 インターネット

外国人が購入したものの代表例

菓子類 食料品 衣料品など

外国人が夜間にお金を落とす割合が低い  
→夜間営業をしている観光地や店舗が少ない  
情報がない、疲労



時間帯によって変わる上人坂  
せわしいが休める空間をつくる

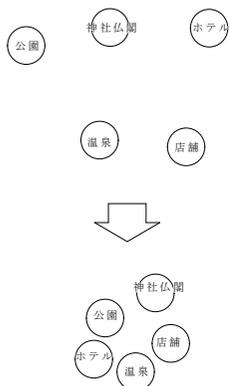
☆この声を生かし、設計の参考にしていく。

## 4. 敷地

愛媛県松山市道後町 上人坂  
JR松山駅から電車で34分、車で16分  
松山市駅から電車で22分、車で14分



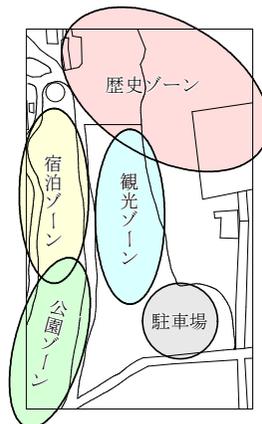
## 5. 敷地計画



今は、道後各地にお店やホテル、観光地が点在している。そのため、一日中、歩き回らなければならない。

上人坂にホテル、お店、観光地などを集め、一日のほとんどをこの周辺で楽しむことができる。そうすることで、土地勘がない人や高齢者、障害者関係なく、道後の雰囲気を楽しむことができ、バリアフリー化の大きな一歩になるだろう。

## 6. ゾーン分け



歴史・観光・宿泊・公園の4つのゾーン分けを行う。そうすることで、密集はしているがゾーンごとの楽しみ方があったり、旅行先でのプライバシー確保をしたりできる。

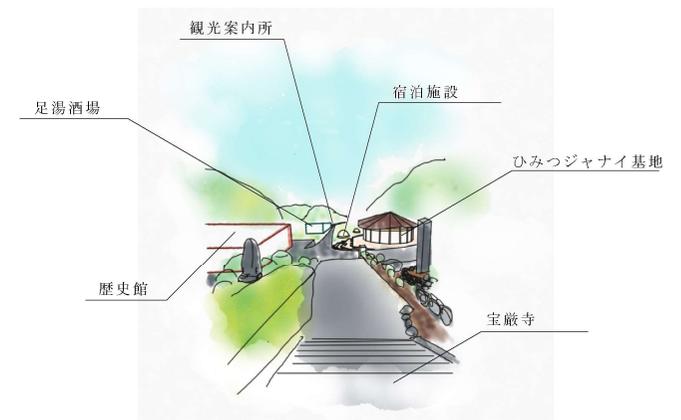
歴史…伊佐爾波神社や宝厳寺を中心に道後の歴史や文化に触れることが出来る。

観光…松山や愛媛の特産品に触れられる。文化や自然と共存する新しい観光地。

宿泊…道後、上人坂に宿泊できる。疑似的に住んでいる感覚を味わえる。

公園…夜の散歩コースとして、子供の遊び場としてなど様々な活用方法がある。

## 7. 新しい上人坂のイメージ



# 道後周辺の課題と解決法

道後の観光地は各地に散らばっている。  
そのため、移動距離も長くなる。それにも  
関わらず、休憩する場所が少ないと感じた。

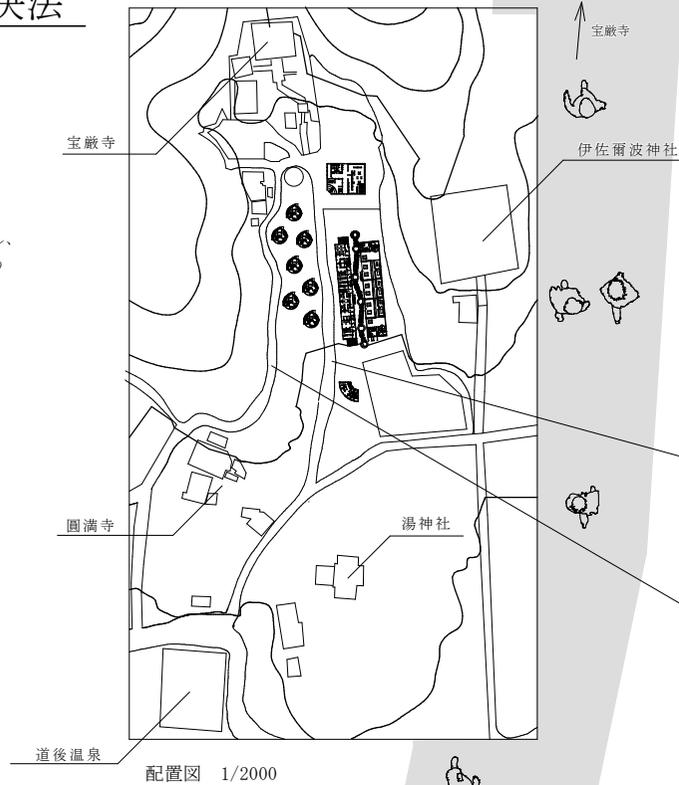


様々な建物の室内外にベンチや休憩所を設ける。  
そこでは、様々な人と交流できるような工夫を施し、  
休憩しつつ、交流しつつ、観光地を巡りつつという  
流れをつくる。

道後商店街には食べ歩きできるものを  
多く販売している。しかし、包み紙や  
お箸などを捨てるゴミ箱が少なく、ゴミ  
の処分に困った。



公園や休憩所、販売しているお店に  
ビン・カン、ペットボトル、可燃、  
プラの四種類のゴミ箱を設置。



# 観光案内所

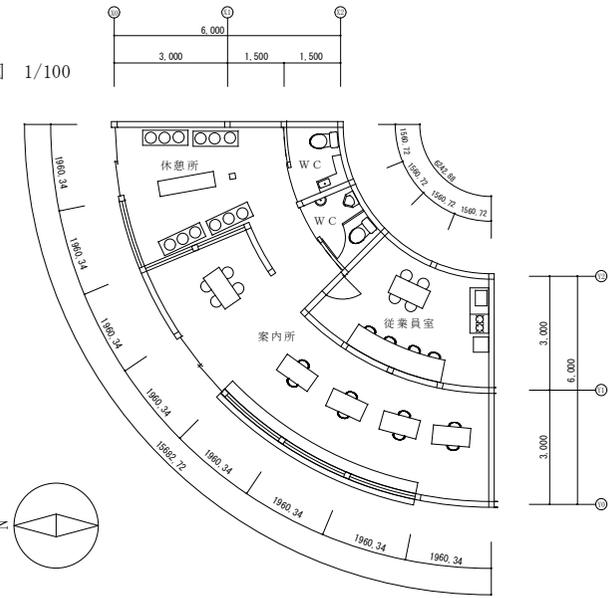
## 計画案

「地域に開いた建物」をテーマに計画する。  
県内外の観光客はもちろんのこと外国人  
観光客にも対応した観光案内所とした。  
形をバームクーヘン型にしたため、道全体  
から訪ねやすい。また、休憩所を設け、観光客  
が上人坂や伊佐爾波神社の階段を上った後に  
一休みできるようにした。そうすることで、  
国籍や年齢、性別関係なく交流することができ、  
新しい観光地としての意味を見出すのではない  
だろうか。

上人坂を歩行者専用道路とする。  
そうすることで、歩行者の方が  
のびのびとお土産を見たり、  
食べ歩きをしたりできる。

上人坂の北側に自動車用の道路を設ける。  
足の不自由な人、高齢者など自力で坂を  
上るのが困難な人も歴史館や宝厳寺を  
訪れることができる。

平面図 1/100



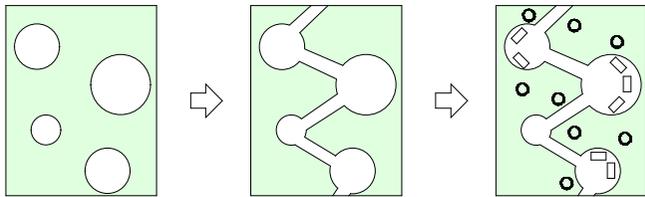
# 公園

足湯酒場の足湯からインスピレーションを得た。

1. 丸い広場を左右に配置

2. ひとつひとつの広場を  
通路で繋げる

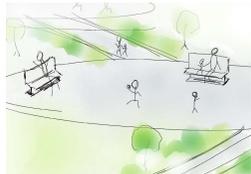
3. 木々やベンチを並べ、  
落ち着ける空間を演出



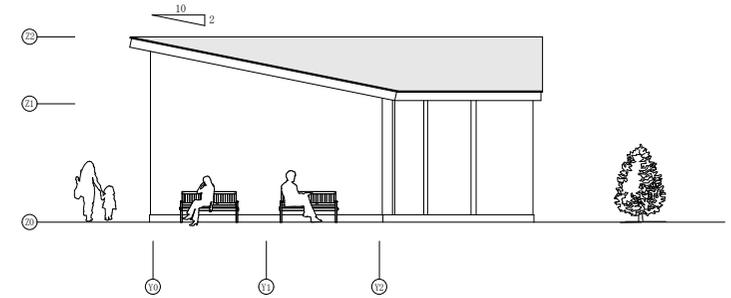
この順序でランドスケープを行っていく。

## 植栽計画

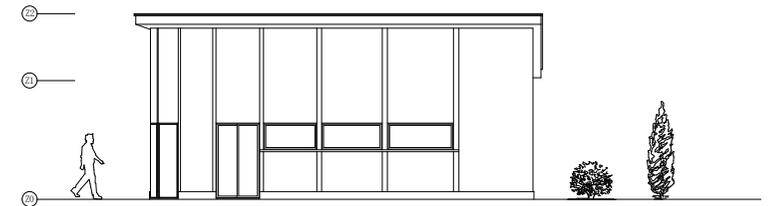
坂上からの景色を損ねないため、  
高い位置には、低めの木 (50cm~1m)  
低い位置には、高めの木 (1m~2m) を配置。  
広場によって木の種類や高さを分ける。  
左右に広がる広葉樹にし、植樹する本数を減らす。  
そうすることで、葉の緑と風景が調和する。  
広葉樹と共にみかんの木を数本植え、  
収穫体験を通して、交流できる。



南立面図 1/100



西立面図 1/100



道後温泉 伊佐爾波神社

# 宿泊施設

## 計画案

「風景に調和」「自然共存型」をテーマに計画する。放置竹林問題を解消するべく竹を構造躯体として利用。木造と竹造の混構造にして、デザイン、構造、環境に配慮した建築を実現した。また、長期滞在の観光客をターゲットにしている。そのため、生活に必要な最低限の部屋をそろえ、道後温泉や伊佐爾波神社、宝蔵寺などへアクセスしやすい場に計画する。

## 構造

竹材は構造躯体としては不十分である。そのため、レンブロカール構造を用い、竹材を写真のように組み合わせると、ドーム型の建物が完成する。また、竹造と木造の混構造とし、地震や風雨に耐えるものとした。

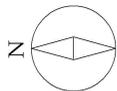
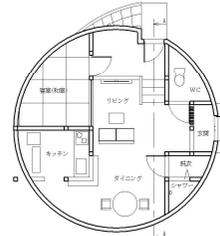
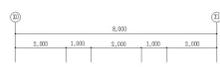


## 放置竹林問題

日本各地では放置竹林の影響で土砂崩れが引き起こされている。愛媛県でも例外ではない。しかし、竹材を大量消費できる活用方法があまりなく、解消されないままである。そのため、建築資材として提案し、新しい活用方法を生み出す。



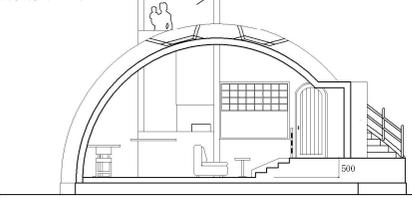
一階平面図 1/150



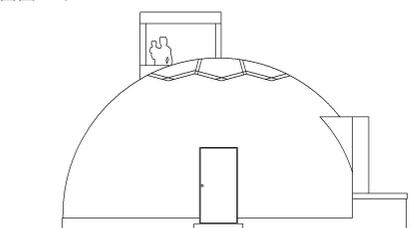
四方の壁と天井をガラス張りとし、お酒などを飲みながら夜景や街並みを一望することができる。



A-A断面図 1/100



南立面図 1/100



# 足湯酒場

## 計画案

「時間によって変わる」をテーマに計画する。人通りの多い昼間は一階のお土産店と二階の飲食店を利用できる。足湯に入りながら、朝は朝食を食べ、夕方から夜にかけてはお酒やご飯を食べることができる。そうすることで、ひとつの建物で朝から夜まで楽しむことができるだろう。また、ネオン坂として栄えた過去を参考にし、夜の足湯酒場を通して、昔の町に戻ったかのような没入感を体験できるはずだ。

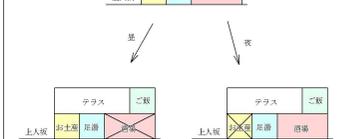
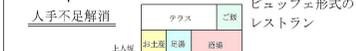
## 足湯×酒場

道後は昔から温泉街として、愛媛の観光業を支えてきた。そして、上人坂は昔、遊郭街として栄えた過去があり、「ネオン坂」という別名を持っているほどだ。その二つの歴史を掛け合わせたいと思った。また夜間営業をしている施設が少ないという(外国人)観光客の声に応えたいと思った。それらの理由があり、足湯酒場を計画した。

## 立体ダイアグラム

時間帯によって、使用できるスペースが異なる。そうすることで、一日中違う楽しみ方ができる。

時間を分けることで人手を減らす。



二階の飲食店と一階のお土産店が開いている。足湯は通常通り。お土産店と飲食店は閉まる。足湯と酒場がメイン。夜景を見ながら、足湯に入りながら、お酒を飲む。

## 酒場



夜、お酒を飲みながら観光客や地元の人々がやってくる。カウンター席やテーブル席もあり、ゆっくりと飲むことも可能である。

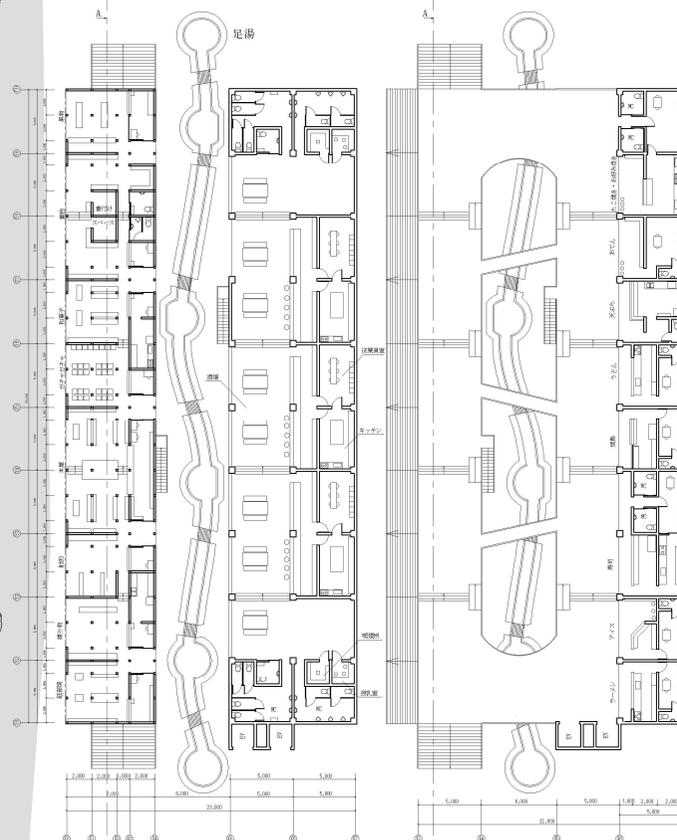
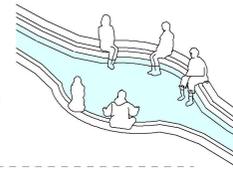
## お土産



上人坂の沿道にお土産屋、二階には食べ歩き販売をお店を設けた。昼間は老若男女問わず訪れ、楽しんでいる。

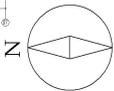
## 足湯

足湯に入りながら、飲食をすることができる。丸い足湯やまっすぐの足湯があり、会話をしながら楽しむことができる。

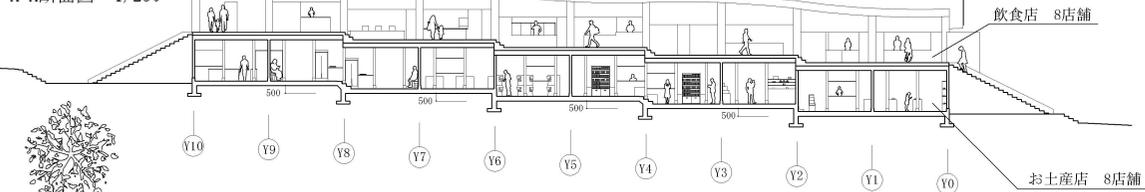


一階平面図 1/300

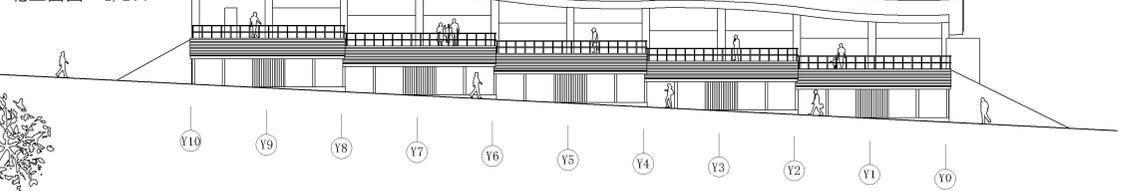
二階平面図 1/300



A-A断面図 1/250



北立面図 1/250



# 神社仏閣について

## 宝厳寺

時宗の寺院  
一遍上人の誕生地  
愛媛県指定史跡

平成25年8月10日  
火災により本堂などが全焼  
↓  
平成28年5月14日  
一遍上人像の開眼法要  
本堂、一遍上人堂の落慶法要

### 建物を見て感じたこと

建物が綺麗だった。一遍上人堂はあまり大きくなかったがそれでもとても興味をそそられるものがたくさんあった。歴史館を計画し、もっと多くの人に知ってもらいたいと思うきっかけになった。



## 伊佐爾波神社

社殿一国の重要文化財  
全国に3例しかない八幡造

仲哀天皇と神功皇后が道後温泉に  
来湯した際の行宮跡に創建

### 建物を見て感じたこと

赤い八幡造の建物が魅力的で、階段から見える道後の街並みはとて綺麗だった。上人坂も宝厳寺から見た景色が魅力的になるような計画がしたいと思うようになった。

# ひみつジャナイ基地

## ひみつジャナイ基地とは…

2019年5月30日から2021年2月28日まで開催された、「日比野克彦×道後温泉 道後アート2019 2020『ひみつジャナイ基地プロジェクト』」のプログラム、「ひみつジャナイ基地(交流拠点)をつくる。」で、様々な人が集う交流拠点をつくるため、設計コンペを実施し(提案者は29歳以下、全国から32件の応募)、審査委員長の日比野克彦氏をはじめ、建築家や地元関係者らが採用した、当時大学院生だった松本樹さんのアイデアをもとに制作されたアート作品です。お互いのひみつをひみつじゃなくする(=共感・共有する)ことで、多様性を認め合う拠点として育ったひみつジャナイ基地を継承・発展させ、持続可能な開発目標(SDGs)のスローガンにも掲げられている「誰ひとり取り残さない」場所として、様々な人たちの活動場所となり、地域とともに育つ交流拠点です。(ホームページ引用)

### 建物を見て感じたこと

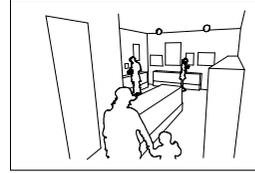
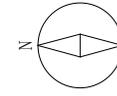
上人坂の中心となっている建物。制作ワークショップや道後の歴史についてのギャラリー展示を行っていた。大きくはないが交流拠点としての役割を果たしていた。しかし、上人坂自体に人が少なく、ひみつジャナイ基地がポツンとあるだけになっていた。そこが上人坂を変えるべく計画を行うきっかけとなった。



# 歴史館

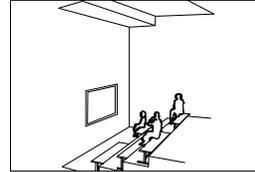
## 計画案

「新たな交流拠点」をテーマに計画する。本来の利用方法は道後や松山の歴史について紹介する施設である。その用途に加え、交流拠点をプラスする。屋上部分に休憩所や展望デッキを設ける。現在も「ひみつジャナイ基地」という交流拠点があるが、スペースが限られているため第2の交流拠点として歴史館の屋上を提案したい。



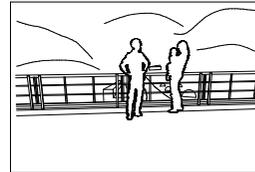
### 展示スペース

上人坂や一遍上人、道後の歴史についての書物や作品を展示している。誰でも気軽に回れるように大きなスペースを設けず、楽しめる場を提供する。



### 鑑賞スペース

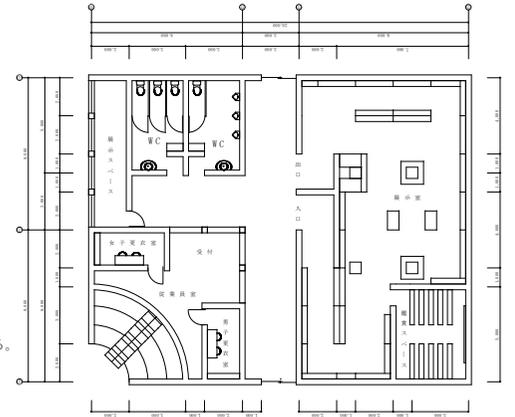
道後の歴史ビデオを見ることで誰でも理解しやすくなる。ストーリー仕立てのため、視覚、聴覚を通して頭に残りやすい。



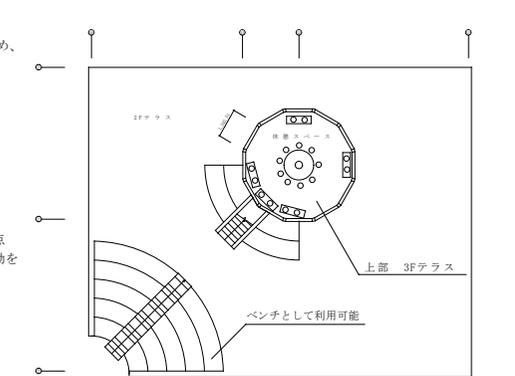
### 展望スペース

坂の頂上にあるため、上人坂はもちろん道後の街並みを一望できる。第二の交流拠点として利用できるほか、様々なイベント活動を実施できるようなスペースとなる。

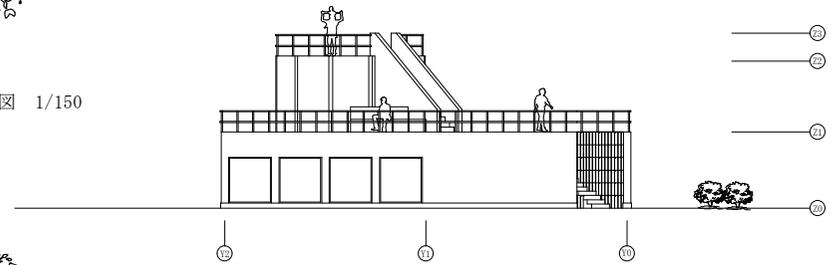
一階平面図 1/200



二階平面図 1/200



北立面図 1/150



西立面図 1/150

